

林檎の森

りんごのもり

9
2020
vol.458



特集

不動のメイン品種「ふじ」
～ふじ生誕80周年～

ふじ誕生の軌跡

現在、りんごの品種の中でもメインとして知られている「ふじ」。その人気振りはアメリカやニュージーランド、中国などの海外でも生産されるほどである。

ふじの誕生は、1939年藤崎町にある当時の園芸試験場東北支場にて、「デリシヤス」の花粉を「国

北7号」として選抜された。

その後、1962年3月6日に、東京銀座千疋屋において東北7号の試食会が行われ、「歯触りがよい」「水分が多くモサモサしない」「甘味が多い」と言った感想が出され、好印象が多かったようだ。終了後命名について話され、当時千疋屋の斎藤義政社長から「ラッキー」という名前も提案されたよ

ふじの栽培確立への道

当時ふじは味が濃く、甘さもあり直感的に良いと思われていたが、その反面着色が悪く、形も整わず保存性が悪い為、増殖に踏み切れない状況であったことから一時は見捨てられる事態にまで及んでいた。

その時、ふじを確立するために

不動のメイン品種「ふじ」

ふじ生誕80周年

光」のめしべに交配した育種試験から始まった。

この組み合わせから274個の果実を収穫し、この収穫した果実から採れた2004粒の種を植え付けたところ、968本の実生が育った。

この実生が初めて実を付けたのは1951年であり、7年間の試験検討を重ね、1958年に「東

うだが、日本に生まれた世界一級品の品種、日本を代表する秀峰富士の広さにあやかり普及してほしい等の願いを込めた事と、発祥の地である藤崎町が関連した「ふじ」が命名された。当時、その会に初代ミス日本であった女優の山本富士子氏が参加していたことも一因といわれている。

立ち上がったのが、後にふじの育ての親となる斉藤昌美氏と、スターキングデリシヤスの普及で実績のある青森県育種同好会副会長の対馬竹五郎氏である。

2人の強いふじに対する確信から、根気強く3年を費やし着色、貯蔵性の改善に研究を重ね、ようやく合格点を得られたことから、



岩木山の恩恵を受け実る管内のふじ



ふじの普及に尽力した斉藤昌美氏

現在のふじの地位を確立する事が出来た。

ふじの生産と需要

かつては効果のある農薬が無かった為、ふじに袋を掛けて病害虫から守るつと有袋ふじを推進していた齊藤昌美氏。だが味のばらつきがあり、さらに経費と労力を費やす必要があつたため、有袋ふじの生産数量は衰退していった。

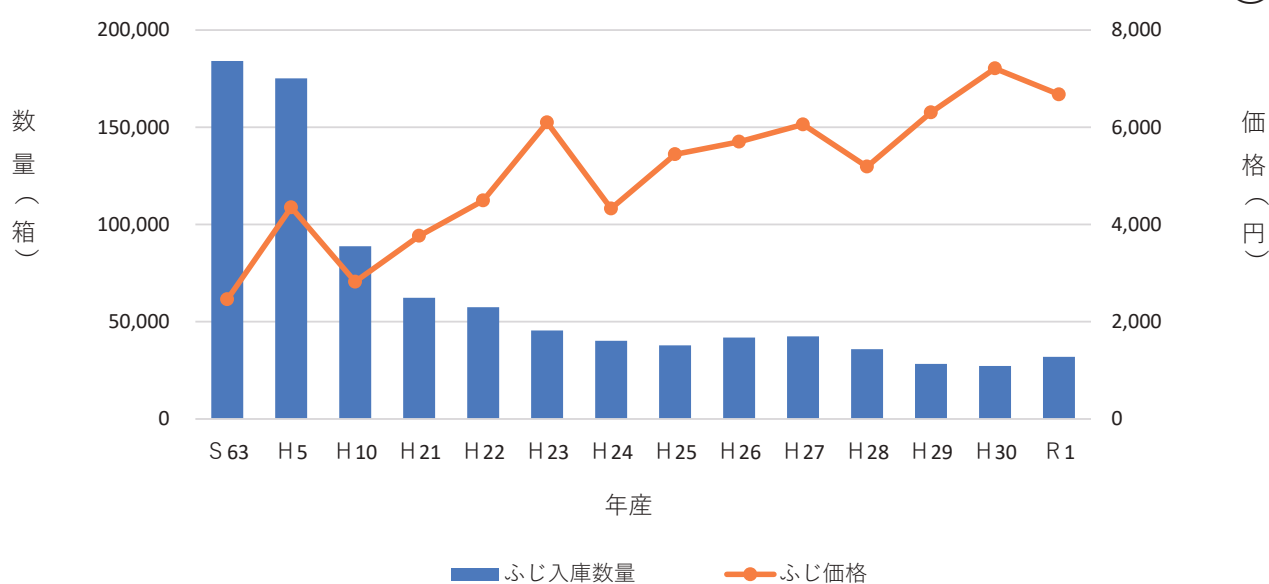
当JAにおける有袋ふじの入庫数量も、下表①を見ると分かるように平成30年産まで減少を辿っている。

しかしこれは有袋の場合であり、サンふじの場合だと、隔年結果や気象等により変動があるが、一定に推移している。

管内の生産者の方々に有袋ふじの生産について話を聞いてみると、「袋を掛ける時間がない」「資材や労力がよりかかる」などの意見が多い。このことから有袋ふじの生産量は減少し、貴重な有袋ふじとして値段は近年6000円を上回っている。

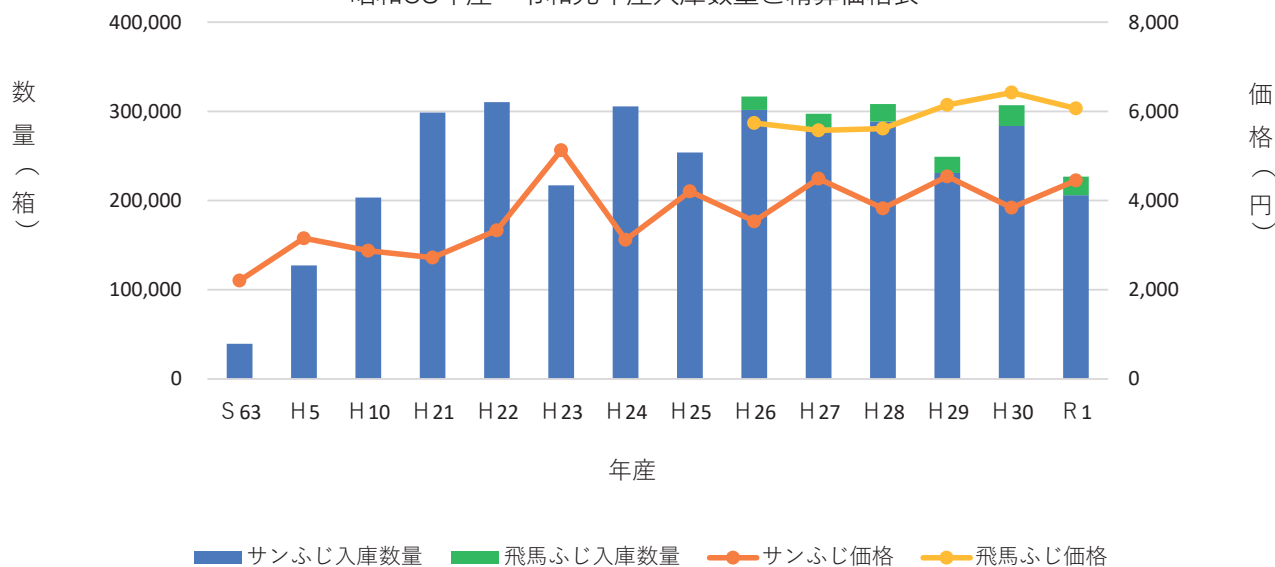
有袋ふじ 昭和63年産～令和元年産 入庫数量と精算価格表

①



サンふじ+飛馬ふじ
昭和63年産～令和元年産入庫数量と精算価格表

②



サンふじに関して前ページ表②をみると、精算価格は上下を繰り返している。有袋ふじとは逆に袋を掛けずに葉取りと玉回しの作業で良い為、比較的労力は少なく生産しやすい。よって生産量は30万箱前後を推移している。

現在では、糖分の供給源である葉を摘まずに、より食味を重視した葉とらずサンふじを栽培する生産者が増加傾向であるほか、着色優良系統ふじに品種更新をする人も多くなっている。一方、土壌からこだわり、りんごの生理生態に合った作業で濃厚な食味を目指す「飛馬ふじ」の生産者も増えている。前ページ表②をみると精算は常に6000円前後をキープしており、こだわりサンふじとしてブランドを確立している。

このようにふじは無袋で食味にこだわった蜜入りサンふじから、長期保存し春過ぎに販売する有袋ふじ、こだわり栽培サンふじや葉とらずサンふじ等まで様々な顔を持つアイテムとして重宝されている。



葉を取らずに着色させた葉とらずふじ



こだわり栽培により消費者からの人気が高い飛馬ふじ

ふじの将来性について

ふじはこれまでに世界のふじとして注目を浴び、世界中で栽培されている。さらに販売に関してもふじの全国の取り扱い約40%と半分に近づいているという。

これからふじはどのような販売になっていくのか、販売担当者に聞いてみた。

結果から言うと、これからさらに注目を集めていくのではないかといい事であった。地場ものを多く取り扱う市場であっても、先に地場産のふじを売り、次に青森県のふじを販売する程ふじのニーズは高いようだ。この販売の流れは長い間続いているという。

また、以前まではジョナゴールド等の品種を主に並べていた店舗が、最近ふじの棚で賑わいを見せているという。近年ではふじの販売に力が入ってきているという県もある。

どの店舗でも試食販売を多く行っていると、ふじの甘味と酸味、シャキッとした食感に好印象をもつ消費者の方が多いという。台湾

や中国などでもこれらの反応は同じなようだ。

どこの市場もふじの販売ピーク前とピーク後では市場の賑わいが180度違うという。

ふじに対する美味しさや認知度の高さ、栽培に関する信頼性から、ふじはりんごの中でも別格となっている。

今後ふじのニーズは高まり、これからも高まっていくのではないかと推測される。



試食販売により消費者をぐっと引き寄せる

5年10年先のふじの生産

販売担当者は、ふじの生産量が全国的にみると今後減少すると推測している。それを食い止めることが出来るのは青森県だけだと言っている。

その理由として、他県に比べると生産者の年齢が比較的若い方なので、体力、気力がよりある事や、これまで先人が築き上げてきた栽培方法を長い年月を掛けて展開していく事が出来る要因が上げられる。先般開催された当JA精算報告会などでも、販売担当者は「ふじを頑張って作ってください。ふじの生産減少を食い止めるのは生産者の皆様です。」と力強く述べていた。

また、ふじの生産持続に伴って、最も重要と言われる剪定技術の研鑽も意識していかなければならない。

収穫期にそのまま結果として表れるふじの剪定。

ふじは糖度が上がり、玉の大きさも確保すると枝が衰弱しやすい品種であり、「ふじの剪定

を制する者はりんごを制する」と言われるほど難しいとされている。多少違った剪定を行つと、徒長枝を伸長してしまうなどの高品質生産に支障が出てしまい、さらに後の作業にも労力が増加してしまう。ふじの親である国光は下がり枝に良いりんごが成りやすいという事と、スターキングは張り枝に良いりんごが成るという事の二つのポイントを押さえて、他の枝でコントロールしながら剪定することも重要だと斉藤昌美氏は言っていた。



ふじの剪定技術を共有

これからも「ふじを制する者はりんごを制する」という精神を胸に剪定技術の研鑽に努めていかなければならない。

生産者にふじに関して色々聞いた

・ふじはりんごの品種の中でもずつと先頭を走っている品種だ。中生種など色々な新しい品種が開発され、栽培している人がいるが、最終的にはふじにたどりつく人も多いはず。これからもメインの品種として経過していくのではないかと思っている。

(五所地区50代男性)

・ふじ、王林、ジョナゴールドと昔からある品種は未だに人気のある品種として注目されているのは、長い年月が経っている分技術も磨かれ、品質的にも良品質なものが多くなっているからなのではないかと思っている。

(紙漕沢地区60代男性)

・りんごの中でも幅広い年齢層に一番浸透している品種がふじだと感じている。

これからも人気を維持してい

くのではないかと感じている

(前相馬地区30代)

これまでふじ誕生から現在のふじを振り返ったが、数多くの苦難を乗り越えふじの可能性を信じてきた斉藤昌美氏をはじめ、先人の方々の努力はこれからも引き継いでいくべきである。当管内の生産者も「ふじに勝る品種無し」と、ふじに対する熱い気持ちを持った方が多い事を感じた。

誕生してから80年間主力品種として位置してきたふじ。今後このふじを超える品種が出てくるかどうかは分からないが、消費者に「おいしりんご」として広く認知されるふじの栽培に磨きを掛け、不動の座を更に確固たるものに出来る様、産地として改めて気を引き締めていきたい。

【参考資料】

・藤崎町観光情報サイト ふじの歴史

・りんご百年史

・青い森の片隅から

・りんごを拓いた人々

相馬支会連合会通信

事務局 小野 朋宣



相馬支会連合会では、8月17日に夏季研修として園地視察や研修会を行い、会員17名が参加した。当JA本所大会議室では、公益財団法人 青森県植物防疫機構 雪田金助 技術主管がりんご腐らん病の発生要因と防除対策について講義を行った。

雪田さんは長年腐らん病の研究に携わり、研究を重ね現在では様々な組織で腐らん病等についての講習を行っている。

今年、腐らん病の発生が目立つて確認されていることから「これからどうしたらいいのか」という事や、「今まで行ってきた対策は正しいのか」といった疑問を解決するために開催した。

講習終了後、会員に感想を聞く声を揃えて「聞いてよかった」「半信半疑であった部分が解決できた」とスッキリした表情を浮かべていた。

そこで今回学んで内容を紹介していきたい。



感染した枝フラン病



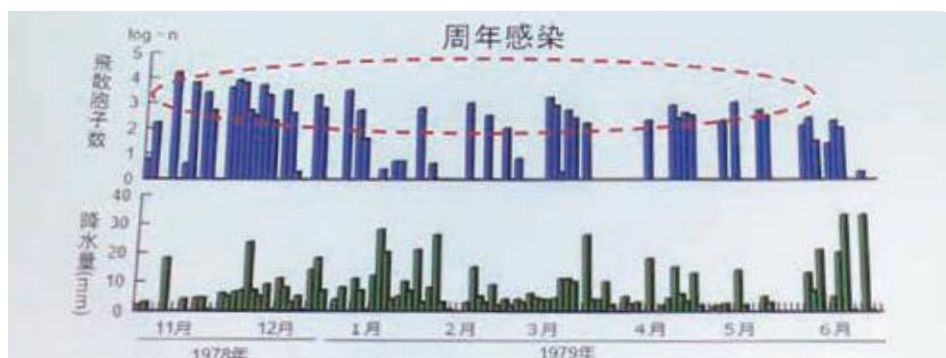
胴木に感染したフラン病

腐らん病は集中感染とも言われているが、周りの園地からも感染すると言われていることから研究したところ、500メートルの範囲が感染源になるとのことである。

また、感染期間は周年感染と言われ、1年中病原菌である胞子が飛散している。また、最も胞子が飛散しているのは11月から1月頃までの休眠期と、6月頃からの摘果作業時であるという。

このことから、6月中旬からの摘果後の果柄感染と、7月半ばから7月末の粗皮形成期に出来た亀裂からの感染が主にある。

腐らん病の殺菌剤として、トップジンM水和剤、ベンレート、ベフランの防除効果が高いとされ、重要な薬剤として選択されている。りんごの樹は腐らん病に対して3月から7月まで抵抗性が下がっていると言われている。また、昨年の気候で見ると、干ばつにより更に抵抗性を下げてしまっていた。フラン病は前年の天候や防除の甘さの要因から発生するとされている。



りんご腐らん病における胞子飛散消長調査の位置事例（昭和53年）



質問に細かく対応する
雪田技術主管

枝腐らん発生の診断チャート

区分	主な感染・発病部位	感染時期	発病時期
枝腐らん	剪定痕	初春～晩春(剪定期)	翌年の春
	枝の先枯れ	2～3月(晩冬～早春)	翌年の春
	果台 (枝齢1年)	摘果後の果柄 5月下旬から6月(摘果期)	翌年の春
	果台 (枝齢2年)	採果痕 9～11月(収穫期)	翌々年の春
		つる折れ果柄 9～11月(収穫期)	翌々年の春

○果台を発病部位とする枝腐らんが多い → ○その多くは枝齢1年 → ○摘果期の感染 → ○防除対策を見直し・強化すべき時期の特定

胴腐らん発生の診断チャート

区分	主な感染・発病部位	感染時期	発病時期
胴腐らん	剪定痕	初春～晩春(剪定期)	翌年の春
	粗皮	6月下旬～8月上旬 (最盛期:7月中・下旬)	翌年の春
	大枝の分岐部	(7～8月)	翌年の春
	治療病斑の再発		1～2か月後 翌年の春

○剪定痕、粗皮を感染・発病部位とする胴腐らんが多い → ○その感染時期は? → ○防除対策を見直し・強化すべき時期の特定
○治療後の再発病斑が多い → ○治療対策の見直し



剪定痕から感染した枝腐らん。(左図)

暗褐色であることから、粗皮感染したことがわかる胴腐らん。(右図)



防除対策強化のための園地診断
腐らん病は、多種多様な感染と発病様相であることから防除体系も異なる。そこで、総合的に防除していくために重要なことは、まず園地診断を行うことが重要である。

園地診断というのは、腐らん病を発見したとき、主にどの部分に腐らん病が発生しているのか、どこから病原菌が入り込んだのか、というような要因を診断すること

で、感染時期の特定をすることで、感染時期の特定をすることで、左図のように、枝腐らん、胴腐らんごとに診断チャートを基として、感染・発病部位を確認することで、感染時期を予測する事が出来る。

病原菌がどこから侵入したのかを確認するには、感染部分付近に剪定痕や、摘果痕、粗皮がないか確認することで感染源を特定できる。

左の被害写真のように色や表面の状態が違つ事で、感染部分を確定することが出来る。

また、迷ったときには表皮を少し削ってみる事で色の変化でも確認することが出来る。

病原菌の進入箇所を確認する事で感染時期を知ることができ、その時期に腐らん病に対してどのような防除をしていたか振り返ることで、次年の防除体制を強化して発病を抑えることに繋がっていく。

根気強い防除でフラン病ゼロ

周年感染で潜伏期間の長い腐らん病。枝腐らんが目立って2～3年後頃から胴腐らんも含め、一層多発するとされている。

そこで、広く知られている塗布剤を使用している防除や、泥巻き法での防除はすぐに効果が実感できないことから、防除対策が甘くなり、菌密度を増やしてしまい、被害の増加、というサイクルに陥るケースがある。その為、根気強く防除をしていかなければならない。

やはり感染源となる適切な処理も含め、園地診断に基づいた防除対策の見直し強化に努め、一つの防除対策を積み重ねる総合防除でなければならぬ。そして防除効果を得られることを再確認していく事で、安定した腐らん病対策をしていく事が出来る。

黒星病や虫の越冬など通年で抑えていかなければならない病害虫が数々あるが、どれも根気強く行う防除が必要となる。その意識を生産者らが持つていく事でそれが当たり前になり、安定したりんご生産に繋がるのではないかとと思う。

topics

税制制度変更 理解を深める

01

当JA青色申告会では、8月4日、5日と夏季税務研修を行なった。初日には、薬師山正人税理士を講師に招き、確定申告書の作成のポイントや今年度から変更になった点を教わった。会員らは、変更点を聞き逃さない様、資料に目を通しながら聞き入っていた。

2日目は、青色申告初心者講習やe-taxに向けた準備、パソコンによる複式簿記入方法の三つの部門に分かれて研修をし、冬の申告書作成に向け準備を行っていた。



変更した制度を真剣に聞き入る会員ら

topics

令和二年産りんご 選果体制整える

02

令和2年産りんご販売を支える選果員らの為の説明会が、8月17日に行われた。

会場には79名が訪れ、今年は「コロナウィルス感染防止の観点から全員が検温し、マスク着用で行われた。大場組合長は「コロナ禍ではありますが、何より皆様の健康が第一ですので、体調管理を徹底するようにお願いします。」と挨拶。今年から、出勤時に事務所入口で検温を行うようにするなどして、コロナ対策に努めながら選果を進めていく。



選果員に対して言葉をかける大場組合長

topics

相馬支会連看板更新

03

相馬支会連合会では、「ゼロ！フラン病」や「黒星病ゼロ！」といった文言が書いてある看板を相馬管内に11カ所設置している。その中の数カ所を更新する作業を8月17日に行った。

今回は2年ぶりの更新であり、新しく俳句形式を採用した。今年度新しく会長に就任した清野一基会長は「ユーモアある俳句にしたので、地域内外の方に注目して見てもらい、注意喚起と共に笑顔も届けたい。」と述べていた。



目立つように工夫し設置する役員ら

topics

家の経営改善へ

04

8月20日、GH農場評価を前相馬地区の柴田康平さんの作業場にて行った。

GHとはGAPの視点から農場が抱える課題を把握し、改善点を提案するものであり、その指導の資格を持つ農業振興課の三上拓哉指導員が行った。

当日は柴田さんへ三上指導員が60項目ほど質問をし、減点法にて評価していった。これから今回行った評価を基に改善を行い、GH農場評価の普及にも繋がるよう、活動を進めていく。



聞き取りを行う三上指導員

topics

高温障害多発に困惑

05

つがるの入庫が最盛期を迎える中、8月末から9月上旬の猛暑により日焼け果が多発した。

紫外線からりんごを守るため、葉取作業を遅らせている生産者が多いことから、入庫のピークも前年よりも1週間ほど遅くなっていた。

生産者らは「収穫が遅くなり柔らかくなったり、品質が悪くならないよう、適期収穫して消費者にいい状態で届けたい。」と話していた。



加工には多くの茶ヤケが見られていた



茶ヤケ、白ヤケ様々な被害が見られる



蚊帳を掛けて日焼け防止をする生産者も見られた

topics

全国大会特別賞受賞

06

湯口支所購買課では、全国JA-POP甲子園2020大会の自由創作部門で特別賞を獲得した。

今大会には去年初参加し、東北ブロックの銅賞をという成績を残したが、今回は83JAの165店舗参加した中で受賞することが出来た。

「去年よりもいい賞を受賞したことで自信になった。これからもPOPを使ってお客様に、商品をより分かりやすく販売していきたい。」と田中購買主任は述べていた。



2種の除草剤が使用目的ごとに紹介されている

topics

もち米豊作に安堵

07

令和2年産青年部もち米の収穫が9月9日に行われ、部員18名が参加した。

今年産は田植えの際に苗が育苗箱2枚分ほど流れてしまい、収穫量が心配されたが、約1トン収穫できたので例年並みに収穫出来た。

柴田康平部長は「当青年部の主力事業が無事終わってよかった。毎年楽しみにしてくれている人もいたので、早く店頭に並べたい。」と話していた。



鎌で刈取り取った稲も残さずコンバインへ

生産情報

農業振興課主任 米澤 松太



○りんご作業（9／15～10／15）

管内のりんごの肥大は、9月2日の調査でふじが77・7ミリと昨年と比べ2日ほど早い生育となっています。

今後は、台風の発生が懸念される為警戒が必要です。防風網や支柱などを点検し、気象情報には十分注意して下さい。

管内のりんご肥大状況（8月31日調査）

	湯 口	紙漉沢	相 馬	平 均	前年比	昨年比
王 林	74.3	72.5	79.1	75.3	99.8%	104.9%
ふ じ	80.9	81.3	78.7	80.3	109.6%	106.1%

※単位は（mm）

●除袋時の注意

除袋の際はりんごの果面焼けを出さないために次のような注意が必要です。

・一般的な二重袋では、まず外袋をはぎ、果実の色が黄色みがかつた時、あるいは薄い縞が入った時に内袋をはいで下さい。

・一発袋をはぐ場合には、曇天か晴天の日中（10時～14時）に行つて下さい。

また、外袋をはぐタイミングで果実に密着している葉を摘み取るようにしましょう。これは着色ムラをなくし、ハマキムシ類の被害を予防する場合にも有効です。

●被害を拡大させないために

黒星病・炭そ病等の被害果は、被害拡大を防ぐためにも、見つけ次第摘み取り、土中に埋めるなど適切な処理をしましょう。

果実に発生する疫病は、降雨時の収穫等によって、果実に泥が付着する事で、冷蔵庫内や出荷先にて

発病することから、降雨時の収穫の際にはできるだけ果実に泥を付着させないように収穫カゴの底にネットを敷き、収穫カゴを直接地面に置かないなどの工夫が必要となります。落下した果実を収穫果に混ぜたり、泥のついた手袋で果実を触らないようにしましょう。

●農作業事故には十分注意を

これからの時期は、夕暮れが早く農作業も忙しくなります。機械の取り扱いや、ハシゴの上り下りをする際は十分注意し、事故やケガのないように農作業を行いましょう。

2020年 農作物防除記録の回収について

●農作物防除記録の記入例●

農協提出用

2020年度 農産物 防除記録

地 区 飛馬 太郎

コード番号 0 1 0 0 1 0 1 0

氏 名 五所

共 防 名

SSタンク容量	散布面積
500・600・ 1000 (ℓ)	1 町 1 反歩

※いずれかに○を付けてください。

作物名

共同防除（共防連加入）の場合は提出不要（りんごのみ）

	散布期間	散布杯数	薬 剤 名（倍 数）
1	4 月 25 日 ～ 月 日	1000 ℓ 1 (杯)	マシン油(200) ペフラン(1000)

杯数の記入をお願いします。

※共同防除（共防連加入）の場合は提出不要です。（りんごに限る）

※共防連に加入していない共防は代表者が一括して提出しても構いませんが、構成員全員の名前を記入して下さい。

10月上旬に、職員が今年度の「農作物防除記録」の回収に伺います。記入例を参考に、「誓約書」と併せて必ず提出くださるようお願い致します。

なお、「りんご生産量調査」等については12月上旬に回収にいたします。

果実販売動向

販売課 田中 瑠偉



猛暑の中、毎日の農作業お疲れ様です。平素はJAフルーツステーションをご利用いただきありがとうございます。高温による日焼け障害果発生については衷心よりお見舞い申し上げます。

8月の果実動向は、7月までの全国的な長雨の影響により青果物全般に数量減の単価高で推移しました。スイカについては腐敗によるロスに加え、品質が弱いことからクレームが増加傾向にあるものの、総体数量が少ないことに加え、連日猛暑が続いたことから高値基調の販売となりました。メロン・モモについても総体数量の少なさとお盆需要による引き合いから堅調な販売が続いています。一方、野菜については、記録的な日照不足により生育が大幅に遅れ、葉物、根菜など幅広く市場入荷数量が落ち込み、価格は過去最高値を記録しました。

リンゴについては元年産の残量の少なさと高値基調から、他県産

早生種の本年産が例年以上に高値でのスタートとなりました。また、産地市場も消費地価格と連動して、仲買の買い気強く例年以上に高値となりました。

元年産りんごが品薄の高値基調で推移したこと、から、全国量販店では輸入りんごの販売を伸長させる結果となつています。特にニュージラード産の「ジャズ」「エンビー」小玉袋詰を食したリピーターが定着しつつあります。

今後、夏果実の減少により、秋果実中心の売り場構成へ移行されますが、競合するナシ・ブドウ・カキ・柑橘類等も品薄傾向

で、現在のところリンゴだけが豊作傾向となっています。例年に比べ小売価格が高めに設定されていることから、消費は鈍化傾向にあり、販売状況は厳しくなることが予想されますので、企画販売に積極的に取り組むとともに、有利販売に努力します。



入庫早々に選果され続々と出荷される製品

りんごの予想収穫量及び結果樹面積

青森県「攻めの農林水産業」推進本部公表

品 種	ふ じ	王 林	ジョナ	つがる	その他	合 計
予想収穫量 (t)	226,300	49,900	42,900	41,100	90,900	451,100
前 年 比 (%)	116	120	126	100	94	110
結果樹面積 (ha)	9,430	2,080	1,900	2,270	4,020	19,700
前 年 比 (%)	100	99	97	100	94	100

直売所「林檎の森」

直売所 三上翔平



いつも直売所「林檎の森」をご利用いただきありがとうございます。

お盆の時期には、法界折やお墓参りへ持っていくお花やお供え物のバナナ、オレンジなどの果物を買っていかれるお客様で大変店内が賑わっていました。

8月に入ってからには獄きみの入荷も始まりました。1本150円とスーパーなどで買うよりもお安くなっており、店頭で山のように盛り上げられているのですが、ほぼ午前中でなくなってしまうほどでした。

また、枝豆やシシトウ、ナンバや、ピーマン、ミョウガなども多く出荷されるようになってきました。キュウリやナスもまだまだたくさん入荷しているので是非漬物など作ってみてはいかがでしょうか？

果物は「きおう」や「つがる」のリンゴ、ナシ、ブドウなども徐々に始めてきているので、今年採れたての美味しい果物も是非おすすめですよ。

まだまだ暑い日が続いているの

でソフトクリーム、シェークもぜひ農作業や仕事の休憩にいかがでしょうか。

そして、会員の皆さまにお願いがあります。新鮮な野菜、果物等出荷してくださり大変助かっているのですが、新しい野菜や果物多くなると日付の古いものは売れ残ってしまうやすく鮮度も低下してしまつので、出荷の際に引き取りを徹底し加工品などは賞味期限の確認をよろしくお願いいたします。これからさらに野菜や果物の出荷が多くなってくると思われるので品質管理へのご協力の程よろしくお願ひします。



大人気の旬のナシも様々な種類があります

直売所「林檎の森」の

今だけイチオシ商品



直売所では旬の野菜が多く入荷中ですが、中でもこれから味がのり、お酒のおつまみには欠かせない毛マメが特に人気商品となってきます。

毛マメは8月上旬から入荷してましたが、少し気温が下がってきた時に味が濃厚になってくるので、これからがお買い求め時期となっています。

お酒のお供となっているのには理由があり、アミノ酸の一種である「メチオニン」というたんぱく質がアルコールの分解を促し、肝機能の働きを助けてくれることからビールのお供とされています。

また、疲労回復や、夏バテ予防にも効果があるとされていますので、是非食べてみてください。

1袋 小袋 **200円**～(税込み)

大袋 **350円**～(税込み)

地域おこし協力隊 活動記 Vol.64



身近にある植物で草木染めの体験をしてもらいました♪ 体験してもらった子どもたちから「液の色と違う仕上がりで可愛いピンク色になった!」、「絞りを入れた所がどんな風になるかドキドキした」、「レジ袋が有料化になったからエコバッグにします」などの感想をいただきました。



(↑) 相馬出身の佐藤芳子さんは、りんご草木染めの第一人者。とってもチャーミングでパワフルな女性です♪ 草木染めのノウハウを学ばせてもらっています。
(←) 体験会の前に「山ぶどう」の茎を煮出した抽出液で染めの確認。今回は、左側の濃い液で染めました

(↑↓) 作品一例



(↓) 山ぶどう



みなさんこんにちは！ 協力隊の佐野です。

現在の私の活動の一つとして、「相馬産山ぶどうの活用法」について模索中です。

しかしながら、染め物に関しては全くの素人ですので、まずはりんご草木染め第一人者の佐藤芳子さんに、染め物のノウハウを教えていただきました。染め物の抽出液の作り方や、絞りの作業の事、作業の工程について、とても丁寧に教えていただきました。

そして、先月『夏休み宿題お助け隊』参加者の子どもたちを対象に、『山ぶどうの草木染め体験』をしてもらいました！ 草木染め初体験の子ばかりでしたが、完成品を見るまでは、自分のバッグが染まるのかな？と心配だった事と思います(笑)。この体験を通して、地元にある草木で染め物ができる事を知ってもらった事ができ、とても嬉しかったです。

今後は、葉や実、果汁を絞った後の皮など、色の出方が違うのか？といった事を試してみたいと思っています。

(*) 相馬地区公式HP (<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/soma/>)



農協役員室で——ネズミ盗聴記

元農協学園長

秋田 義信



農協の役員室。今日は油売りや放送局とオンベ、マムシが居る。

この人たちの中にはムラ八分（はちぶ）でなく、家八分——つまり、余され者も居る。農協の役員室は組合員であれば入室無料だから都合がよい。お茶も出る。入口の横に「〇〇のコロナ、入るべからず」と誰かが貼ってあるが、それは誰のことかわからない。農協の組合員の中にマムシ、マメコバチのほかコロナもあるらしい。クマは奥相馬の人だそうだが。

放送局「コロナのことで東京の百合子知事がテレビに多く出るな——」

油売り「おかげで百合子の知名度が上がったということか」

マムシ「あのオナゴ、ワ（吾）好きでないな——イロ仕掛けでオドゴ達をあやつって来たと書いている週刊誌もあるよ」

オンベ「利用されている一人は自

民党の二階幹事長か。それでいて百合子は自民党に入らない」

油売り「なぜだ」

オンベ「東京都民に非自民の人が多いからですよ」。

放送局「アメリカの大統領選挙がどうなる？」

オンベ「トランプは柄（ガラ）が悪いな——土方（どかだ）の親分のような——」

油売り「彼はカネがあるらしいから……」

オンベ「アメリカでは大統領選挙に出るには日本円にして五十億円ほど用意しなければならぬぞうた」

油売り「企業からの政治資金も多いうらう」

花や
絵を
愛する人に
悪人がない
（心が肥えている人）

義信

編集部をつぶやき～編集後記～

いつも広報「林檎の森」で講読ありがとうございます。

9月に入り残暑が続く中お仕事大変ですね。令和になりなんだか暗い事が続いているようですが、今年で日本を代表するりんごふじが80周年と明るいニュースで特集を組ませていただきました。自分自身この特集を掲載にあたり、とても勉強になり感動しました。

私もこれからこのふじを創り上げた先人のように精進してまいりたいと思います。

でも、身体が主本でありますので充分体調管理には気を付けて過ごしていきたいと思います。

By tomoshi

理事会だより

8月20日（木）

- 1) 決算書類監査結果について
- 2) みのり監査法人監査報告について
- 3) 7月末残高試算表について
- 4) 組合員の加入及び名義変更について
- 5) 農地利用集積円滑化事業規程の全部廃止について
- 6) 退任理事に対する退任給与金の支給について
- 7) 退任監事に対する退任給与金の支給について
- 8) 第56回通常総会開催について
 - ① 通常総会参考書類の承認について
 - ② 議決権行使書類の取扱いについて
 - ③ 決算書類及び部門別損益計算書の承認について
- 9) 貸付関係について
- 10) りんご販売関係について
- 11) 固定資産の取得について

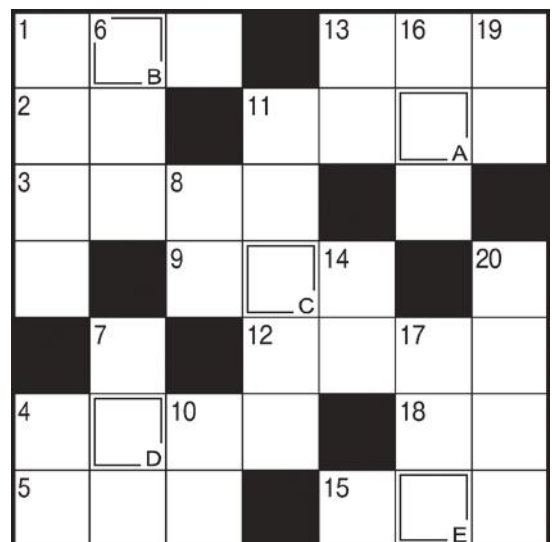
- 20 19 17 16 14 13 11 10 8 7 6 4 1
- 【タテのカギ】
- 1 本のこと。電子——
釣った魚を入れておく籠
今日の——ディッシュはステーキです
漢字では秋刀魚と書く青魚
ここからばた餅が落ちてきたらフッキー？
牛の頭に生えています
この下駄箱は——だから動かさません
ドリルで開けるもの
焼き肉を漬けたりかば焼きに塗ったり
うわさが広まるときに付きやすい
10月10日は目の——デーです
やぼではありません
腰をひねるようにして踊るダンス

パズル？ 頭の体操

出題：二重

Q 二重マスの文字をA～Eの順に並べてできる言葉は何でしょうか？

- 18 15 13 12 11 9 5 4 3 2 1
- 【ヨコのカギ】
- 1 匂いマツタケ、味——。おいしいきのこです
2 日が暮れてすぐの頃
3 晴れた日にはかどりやすい家事
4 ——油を付けて日本髪を整えた
5 世界遺産の一つ、——古道
9 千葉県にある市。大きな国際空港があります
11 運動会の競技の一つ
12 配偶者のこと
13 徳川家の家紋に使われている植物
15 眠ったまま話します
18 ベンチもこれの一種



答えは広報「林檎の森10月号」にて掲載いたします。

8月号の答え A：メ B：イ C：ゲ D：ツ

表紙物語

今月の表紙は、相馬管内で実りの秋を間近にした稲とそれを見守る岩木山の風景である。

稲刈り目前であり、りんごは収穫最中ということで、管内の農作業中の複数の園地にお邪魔した。

りんごはつがる、きおうなどが収穫真っ最中であり、取材時の気温は35℃と残暑が厳しい状況であった。生産者の皆さんは「暑くて大変だが、美味しいりんごを食べてもらうには今頑張るしかない。」と自分を奮い立たせていた。

お邪魔した園地では熱い中慌ただしく作業をしており、そんな中でも取材に対して笑顔で対応して頂いた。

毎年秋が近づくと管内の風景が変化し、様々な果実や稲などにより色が現れる。

ラストスパートを迎える農作業を最後までサポートできるように今後も協力していきたい。



真っ赤に色付いた「つがる」



厳しい暑さの中早々と収穫作業を行う生産者



「まんずあつっいっきゃな～」



適期収穫を話し合いながら作業

JA相馬村広報

林檎の森

2020.9 Vol.458

■発行者
相馬村農業協同組合
〒036-1593 青森県弘前市大字五所字野沢23-1
TEL.0172-84-3215 FAX.0172-84-3497

■編集
総務課広報
ホームページURL <http://www.ja-souma.or.jp/>
e-mail:soumuka@ja-souma.or.jp

■発行日
2020年9月15日

JA 相馬村概況

〈令和2年8月末日現在〉

組合員数	867 人
（うち准組合員数	369 人）
出 資 金	620,880 千円
貯 金 額	9,462,620 千円
共済保有高	3,292,385 万円